日銀支店長が語る

経済よもやま話

第6回 念願の東北地方の夏祭り

日本銀行仙台支店長　岡山 和裕

お祭りとは

子供の頃から、お祭りが好きだった。というのも、いつもは認められていなかった夜の外出も可能となったし、また、買い食いも認めてもらえたからだ。さらには、太鼓や笛の音を聞くと、なぜかしら、ウキウキとした気持ちになった。

そして、大学生になった時に、政治学の授業で「ハレ」と「ケ」を習った。すなわち、日常が「ケ」に当たるのだが、「ハレ」は非日常ということだった。“そっかぁ、お祭りにウキウキしていたのは、それが非日常だからなのか”。

また、調べてみると、「祭り」という言葉は、「祀る」や「奉る」からきていて、先祖を祀ることからも派生しているらしい。だからか、祭りはお盆の時期に近いことが多いように思う。

いざ、東北各地のお祭りへ！

今年４月に仙台への赴任が決まった時にまず思ったのは、実は仕事のことではなく（笑）、東北の夏祭りに是非とも行ってみたいということ。夏になると、必ず東北の夏祭りのニュースが流れるので、毎年「行ってみたいなぁ」と思いつつ、いつの間にか忘れて、また翌年にニュースを見て「行きたい」と思う、実に生産性のないサイクルだったのだ。

という訳で、赴任するや否やスケジュール調整に入った。調べてみると、東北の夏祭りが８月１日から７日までに集中して開催されるので、うまくすれば、かなりのお祭りに行けることが分かった。

そして、いよいよお祭り週間に突入。盛岡さんさ踊り→青森ねぶた祭→秋田竿燈まつり→仙台七夕まつり→山形花笠まつりの順である。

行ってみると、各地のお祭りは、様式も違うし、お囃子も違う。それは、各地のお祭りが地域の風土に根ざしているからだろう。でも、共通しているのは、地元の人がお祭りをこよなく愛していること、そして、楽しんでいることが実感できた。各地で「昨年までは○○ができなかったのだけれども、今年はできるようになったのは良かったね」という家族連れの会話が、頻繁に聞こえてきた。

また、今年は本格開催だったため、①インターネットを使った宣伝を積極化したほか、②警備費や材料費の上昇を受けて、観光客にお金を支払ってもらう仕組みを拡充する動きがみられたと思う。

こうした動きは、最近のデジタル化や物価上昇を受けたものであるが、これまで伝統を受け継いできたお祭りのサステナビリティ（持続可能性）を確保するためには、必要だと思う。

そして、こうした取り組みも行いつつ、東北各地のお祭りが、地元の人に加えて他の地域の人も見てみたいと思うようなお祭りとして継続することを強く願う。

岡山 和裕 氏　プロフィール

1969年（昭和44年）生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち８部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任